

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00554

研究課題名（和文）現代南アジアにおけるムスリム社会の多極化の傾向 - テロとツーリズム

研究課題名（英文）Multipolarization of Muslim Societies in South Asia

研究代表者

外川 昌彦（TOGAWA, MASAHIKO）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：70325207

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 34,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、安定した経済成長を続け、縫製産業を中心とした工業化への構造転換が進むバングラデシュ社会を事例として、市民的権利の表明としてのイスラーム主義運動や多様な宗教的実践の消費社会化などの南アジアのイスラーム化の多極化の傾向を、農村社会の構造変動や人や情報のグローバルな移動を背景とした地域社会の変容を通して検証する。農村経済学、国際開発学、人文地理学、観光社会学、文化人類学、イスラーム学などの学際的な研究者を組織し、南アジアのムスリム社会の複合的な変容を捉える分析枠組みの構築を通して、イスラーム化の新たな多極化の傾向を、政治・経済変動との相関関係を通して明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

過去10年間の平均GDPが6%以上の安定した経済成長を続け、世界第二位の衣料品の輸出国となったバングラデシュは、急速な社会変化が、それに伴う政情不安や治安の悪化をも招くひとつの背景をなすことで、2016年7月には、国際的なイスラーム過激集団の関与が指摘され、開発現場の日本人7名が犠牲となる、ダカ人質テロ事件が起きる。経済成長下の変容する南アジア社会のイスラーム化をめぐる新たな動向を捉える学際的な研究体制の組織が急務となり、これまで多文化が共生する穏健なムスリム社会とされてきた同国の新たな社会変動の構造的な要因の解明という学術的・社会的要請に応える形で、本共同研究は組織された。

研究成果の概要（英文）：This study uses Bangladesh society, which is undergoing stable economic growth and structural transformation towards an industrialised society, as a case study to examine the multi-polar trends of Islamisation in South Asia, such as the Islamist movement as an expression of civil rights and the consumerisation of diverse religious practices, through structural changes in rural society and global movement of people and information. By organising interdisciplinary scholars from rural economics, international development studies, human geography, sociology of tourism, cultural anthropology and Islamic studies, this project aims to identify new multipolar trends of Islamisation through the construction of an analytical framework that captures the complex transformations of Muslim societies in South Asia and their correlation with political and economic trends.

研究分野：文化人類学

キーワード：南アジア 社会変動 ムスリム バングラデシュ 地域研究 経済成長 文化変容 多極化

1. 研究開始当初の背景

パキスタン、インド、バングラデシュなどから構成される南アジア世界は、広大な農村部を中心に約5億人のムスリム人口を擁し、世界のムスリム人口の約三分の一を占め、ムスリム人口の集住地域として知られる。

政治、経済的にも影響力を高めてきた同地域のムスリム社会は、イスラーム急進主義のネットワークの拡散が注目されてきたが、同時に聖地巡礼ツーリズムやハラール認証商品、ムスリム・ファッションなどの新たな消費社会化の傾向も生れ、世界のムスリム社会にも影響を与えるようになった。その中でも、1億6千万人の人口を擁するバングラデシュは、世界第二位の衣料品の輸出国として、過去10年の平均GDPが6%以上の安定した経済成長を続け、工業化社会への構造転換が進んでいる。2018年には、国連に最貧国からの「卒業資格」の認定を受け、急速に変貌する南アジア社会でも、その最前線の地域に位置付けられる。

バングラデシュの農村社会は、近年は貧困率や識字率が大幅に改善し、女性の地位が向上するなどの大きな社会変化を経験する。農業に依拠したかつてのバングラデシュ社会では、中東からの資金流入などによる農村部の低所得層でのマドラサ神学校の拡大が、イスラーム過激運動の温床とも見なされていたが、近年のイスラーム主義運動は中間層などのより多様な階層に支持基盤を広げている。2016年7月のダカ人質テロ事件では、富裕層で高学歴の若者が実行犯に含まれるなど、穏健なムスリム社会とされてきた同国の社会的リスクの高さが露わとなり、新たな社会変容の解明が急務となった。

隣国インドでのヒンドゥー至上主義運動の台頭が、ムスリムが多数派を占めるバングラデシュでは、イスラーム・ナショナリズム運動の高揚に影響を与え、海外を含めた出稼ぎ労働者の拡大やネットやSNSを通じた言論空間の広がりが、グローバルな人や情報の動きを通じた新たな市民社会の形成を促している。また、消費社会化の進行や新たなメディアの普及は、ハラール認証の食品や化粧品の商品化や、聖地巡礼ツーリズムやムスリム・ファッションの流行など、人々の社会意識にも新たな傾向を生み出している。

このような状況は、既存の開発研究や人文的研究に依拠したこれまでのバングラデシュ研究やベンガル研究では想定されない現象や社会集団に起きている変化であり、グローバル・サウスの一角でプレゼンスを高める南アジアのムスリム社会の多極化の傾向は、世界のムスリム社会の動向を占う上でも、ひとつの試金石を与えるものと考えられた。

2. 研究の目的

本研究は、安定した経済成長を続け、縫製産業を中心とした工業化への構造転換が進むバングラデシュ社会を事例として、市民的権利の表明としてのイスラーム主義運動や多様な宗教的実践の消費社会化などの南アジアのイスラーム化の多極化の傾向を、農村社会の構造変動や人や情報のグローバルな移動を背景とした地域社会の変容を通して検証することを目的とする。

過去10年の平均GDPが6%以上の安定した経済成長を続け、世界第二位の衣料品の輸出国となったバングラデシュは、急速な社会変化が、それに伴う政情不安や治安の悪化をも招き、経済成長下の変容する南アジア地域社会のイスラーム化をめぐる新たな動向を捉える学際的な研究体制の組織が急務となっていた。そのため本研究では、農村経済学、国際開発学、人文地理学、観光社会学、文化人類学、イスラーム学などの学際的な研究者を組織して、南アジアのムスリム社会の複合的な変容を捉える分析枠組みを構築し、イスラーム化の新たな多極化の傾向を、政治・経済変動との相関関係を通して明らかにする。

3. 研究の方法

近年のバングラデシュにおけるイスラーム運動の多様な展開は、ムスリム宗教者が依拠する農村部の権威的基盤の揺らぎや、情報や人の移動、消費社会化する宗教的実践などの、近年の地域社会の社会変容を背景に生み出されていると考えられ、その統合的なメカニズムの解明が求められていた。

たとえば、NGO団体が推進する小規模金融（マイクロクレジット）の活用によるムスリム女性の社会的地位の向上は、ムスリム宗教者のウラマーやマドラサ関係者などの農村部での宗教的権威の基盤を脅かすものとも見なされ、聖地巡礼ツーリズムや中東などへの海外出稼ぎ労働者の拡大などの国外のムスリム諸国との交流の深まりは、グローバルなイスラーム主義運動の影響を地域社会の人々にもたらすものとなる。隣国インドのヒンドゥー至上主義運動の台頭や西欧諸国でのマイノリティ移民社会へのイスラーム嫌悪（イスラーム・フォビア）の風潮が、バングラデシュ国内のイスラーム・ナショナリズム運動やヒンドゥー教徒に代表される宗教的マイノリティの位置づけに影響を与えるなど、イスラーム化における多元的なベクトルが指摘される。

これらの動向は、貧困削減や教育の普及によって、宗教的「原理主義」や「家父長制」などの

伝統的権威から解放されるとする既存の開発社会論や、多文化が共生する農村社会をひとつのモデルとして語る、イギリス植民地期のオリエンタリズム的社会観の影響を残す既存のベンガル社会論などの視点では捉えられない新たな傾向であり、より統合的な見取り図の下での分析が不可欠なものとなっていた。

そこで本研究では、南アジアの学際的な研究者を組織して、南アジアのムスリム社会におけるイスラーム主義運動の台頭や消費社会化の影響などの近年の社会変化を、急速な経済成長を続けるバングラデシュの地域社会の変動を通して検証し、イスラーム化をめぐる近年の多極化の傾向を学際的に検証する。

具体的には、農村経済学、国際開発学、人文地理学、観光社会学、文化人類学、イスラーム学、南アジア思想史などの学際的な研究者を組織して、バングラデシュを中心としたムスリム社会の多様な社会変化の傾向を、グローバル化する南アジアの地域社会の構造変動に位置付ける。特に、次の4つの課題から、それらを相互に関連した複合的な分析枠組みとし、近年のイスラーム化の多様な動向を、その座標軸上に位置づけることで、新たな多極化の傾向を明らかにする。

- (1)農村社会の農業慣行や就労構造の変化を通して、伝統的な権威基盤や保守的な宗教勢力を支える農村社会の社会関係の流動化を、長期的な視点から明らかにする。
- (2)多様な利害が対立する地域社会の構造を、地域住民の多元的な視点から捉えなおし、経済分析や住民参加などの社会開発の手法を通して統合的に分析する。
- (3)教育の普及や消費社会化の浸透を背景とした観光ツーリズムや巡礼の拡大を通して、宗教の商品化やグローバルな世界との結びつきを明らかにし、その影響の広がりを跡付ける。
- (4)思想史の課題として論じられてきたイスラーム運動をその社会基盤に位置付けて検証し、南アジアのムスリム社会の動向を統合的に理解する枠組みを検証する。

4. 研究成果

研究の初年度である2019年度には、バングラデシュ・ダカにおける国際シンポジウム（Independent University, Dhaka, 10月19日）と、日本ベンガルフォーラムとの共催シンポジウム（東京外大、6月30日）を含む、8回の公開研究会を開催した。

具体的には、現地研究者を組織する共同研究プロジェクトでは、チョットグラム県ゴヒラ村での世帯別基礎調査と、それを発展させた3つの現地調査プロジェクトを実施した。また、研究者ネットワークの構築や若手研究者育成を目的として、3名の研究者を現地調査に派遣し、招聘研究者（Prof. Abhijit Dasgupta）による研究会を開催し、2名の非常勤研究員を雇用した。その他、東京外国語大学AA研の全所プロジェクトとして、ポスター発表を行った。

2020年度には、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、予定していた現地調査は中止となるが、代わりにZoomを活用して、国内外の研究者を組織したオンライン研究会やシンポジウムを企画し、通算11回の研究会と学会発表を行った。

具体的には、現地拠点校の国立ジャハングルノゴル大学と結んだ研究会（5月2日）の他、デリー大学（10月10日、及び11月1日）と結んだセミナーを開催した。また、インド、バングラデシュ、ネパール、スリランカ、アフガニスタン、パキスタンにおけるコロナ感染症の問題を取り上げる国際シンポジウム（11月27-28日）を、23名の現地研究者を組織して開催した。その中では、たとえば、コロナ禍をムスリム社会と結び付ける「コロナ・ジハード」言説が、デリーの市民社会における宗教的緊張関係を拡大するなど、コロナ感染症が地域社会に与える影響を検証した。国際保健医療学会などの4学会合同のグローバルヘルス大会では、南アジアのコロナ感染症の問題について報告を行った。

その他、デリー大学をホスト校とする第6回国際ベンガル学会（2021年2月25-28日）では、プロジェクトの成果の一部として、バングラデシュ・ゴヒラ村の共同調査の成果について報告し、関連出版物についての検証を行うパネル・セッションを開催した。また、AA研の共同利用・共同課題との共催として、若手研究者を組織したセミナー「グローバル化するムスリム社会の生活世界の多極的な変容」を開催した。

現地研究者を組織する共同研究プロジェクトでは、3つの現地調査プロジェクトを実施した。現地社会との人的交流は困難な状況にあったが、日本では3名の非常勤研究員・研究補助員を雇用した。

2021年度は、前年度に続く新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、予定していた現地調査は延期となるが、代わりにZoomを活用した、国内外の研究者を組織したオンライン研究会やセミナーを企画し、通算7回の研究会やワークショップを行った。

具体的には、現地研究拠点のジャハングルノゴル大学と結んだ農村社会の変容に関する研究会（6月5日）、東京外大AA研の海外学術調査フォーラムでのポスター発表（6月20日）とAA研フォーラム（7月10日）、研究分担者を組織した金融包摂に関する公開セミナー（7月20日）、観光開発に関する研究会（8月4日）、ロヒンギャ難民問題についての現地拠点と結んだワークショップ（8月7日、11月13日）の開催などである。その他、国際ベンガル学会との共催で、バングラデシュの独立50周年記念行事として企画された独立記念連続セミナーでは、元バング

ラデシュ日本大使の堀口松城氏による記念講演（3月26日）を開催した。

現地拠点と連携した現地研究も、フィールド調査はなお困難な状況にあったが、それぞれに調査・研究活動を継続して実施した。

2021年4月には、現地拠点代表で、ジャハングルノゴル大学のRanjan Saha Partha教授が、東京外大AA研の外国人客員研究員として来日し、9月まで共同研究を行った。その中では、本プロジェクトの成果の一部として2021年度に刊行された成果論集について、現地拠点とオンラインで結んだセミナー（6月3日）を行った。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策に対応しつつ、オンランを中心としたセミナーと現地拠点を通じた現地研究者によるプロジェクトを継続し、徐々に現地研究拠点との人的交流と現地調査の再開を進めた。

具体的には、2回の国内研究会と5回の国際セミナー、6名の現地研究者による現地調査プロジェクトを実施した。国内研究会では、分担者による各課題の進捗状況についての報告を含めた研究会を開催し、特に、農村女性の位置づけの変化、イスラミック・ツーリズムの新たな展開、人文地理学からの政治生態学的アプローチの問題などについて議論を行った。また、各分担者による、成果報告集の取りまとめに向けた研究打ち合わせを行った。

国外研究会では、アメリカ、カナダ、マレーシア、インド、イギリス、日本の研究者を、現地拠点を通してオンラインで結んだ連続国際セミナー「南アジアの世俗化・イスラーム化・グローバル化 - バングラデシュの二極政治を越えて」を企画し、7月9日、8月21日、9月30日、12月23日、2月17日の5回の公開セミナーを開催した。

これまで延期となっていた調査計画については、なお出入国には大きな制限はあったが、8月以降、徐々に再開を見るようになり、現地研究者を組織した調査プロジェクトを実施した。

プロジェクトの最終年度にあたる2023年度には、新型コロナウイルスの拡大防止策への対応で遅れていた現地調査や資料収集を再開し、また、オンランを併用する形で、現地拠点を通じたセミナーや現地研究者との打ち合わせを行い、これまでの研究成果の取りまとめを進めた。

国内研究会としては、前期に2回、後期には最終報告書の執筆予定者の全員による報告会を3回に分けて実施した。また、関連学会や国際学会、及び社会貢献の一環として、日本宗教学会の公開シンポジウムと国際人類学民族科学連合大会（IUAES）でのパネル報告を行った。

具体的には、5月20日に青山学院大学を会場として、バングラデシュの経済発展と地域社会の変容をテーマに、3名の報告者による研究会を行った。7月28日には、南アジアのインターセクショナリティ（交差性）とジェンダー視点の主流化をテーマに、5名の報告者と2名のディスカッサントによるワークショップを開催した。この時は、日本地理学会・ジェンダーと空間/場所研究グループとAA研基幹研究人類学との共催とし、公開でのオンライン開催とした。後期には1月24日、2月6日、3月4日の3回に分けて、4名ずつの報告者による成果論集の執筆に向けた集中的な研究会を開催した。

社会貢献の一環として、9月8日には第82回日本宗教学会の大会企画として、4名の報告者と2名のディスカッサントによる公開シンポジウム「教育とイスラーム 公教育から見た宗教文化の多様性」を開催し、本科研はその後援として参画した。また、海外拠点と連携した企画として、インド・デリー大学を会場として開催された第19回国際人類学民族科学連合世界大会（19th IUAES World Congress）において、10月17日には5名の報告者と1名のディスカッサントによるパネル報告を行った。日本宗教学会での公開シンポジウムや、国際人類学民族科学連合大会への参加などの学会活動や社会貢献、国際連携の強化は、最終年度の大きな成果となった。

成果物の出版として、特に全体の成果論集の成果としては、*Kinship and Family among Muslims in Bengal* (Masahiko Togawa et.al, eds. Delhi: Manohar, April, 2021) が刊行され、現地拠点と連携して企画した論集 *Sharanrthir Sange Bosbas: Rohingya o Sthaniyo Bangalir Pratyahik Abhigyota*, (Partha Ranjan Saha, Masahiko Togawa, and Obydullah Al Marjuk, eds., Dhaka: University Press Limited, August, 2024, Bengali) が刊行予定であり、その他、本年度中に日本語での論集、及び2025年には英語論集が刊行の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤田幸一	4. 巻 34
2. 論文標題 南アジア地域研究プロジェクト（INDAS-South Asia）を締めくくる「特集序論」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東さなえ、田辺明生、藤田幸一	4. 巻 34
2. 論文標題 南アジア地域研究の課題・方法・展望－人類学者と経済学者の対話 第 部：報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 40-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東さなえ、小茄子川歩、杉江あい、田辺明生、藤田幸一	4. 巻 34
2. 論文標題 南アジア地域研究の課題・方法・展望－人類学者と経済学者の対話 第 部：討論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 71-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田幸一	4. 巻 1
2. 論文標題 Q&A 4. 農業・農村	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 これからのインド・ビジネス～政治・経済・社会・ビジネス環境	6. 最初と最後の頁 200-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田峰夫	4. 巻 1
2. 論文標題 カテゴリーの段階的遷移 「事件」から見たバングラデシュ・ミャンマー国境地帯と「ロヒンギャ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南アジアの新しい風(上) - グローバルな社会変動と南アジアのレジリエンス	6. 最初と最後の頁 99-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉江あい	4. 巻 74 (3)
2. 論文標題 学会展望(地誌・地域研究)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 227-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ai Sugie	4. 巻 1
2. 論文標題 Do 'Islamic Norms' Impede Inclusive Development of Women?: A Case Study of Islamic Education for Women in Rural Bangladesh	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Inclusive Development in South Asia	6. 最初と最後の頁 250-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita, K., A. Ohno, and K. Vatta	4. 巻 58 (5)
2. 論文標題 Contrasted Agrarian Change in Punjab, India: Case Study of Two Villages in Ludhiana and Jalandhar Districts	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Economic & Political Weekly	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 第96巻別冊
2. 論文標題 岡倉天心とインド知識人との仏教史観をめぐる対話	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 63-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 1
2. 論文標題 タリーカ、聖者崇敬 (ベンガル)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 世界民族百科事典	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 第96巻別冊
2. 論文標題 日印交流における仏教：パネルの主旨とまとめ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 65-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田幸一	4. 巻 34
2. 論文標題 南アジア地域研究プロジェクト (INDAS-South Asia) を締めくくる「特集序論」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東さなえ、田辺明生、藤田幸一	4. 巻 34
2. 論文標題 南アジア地域研究の課題・方法・展望ー人類学者と経済学者の対話 第 部：報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 40-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東さなえ、小茄子川歩、杉江あい、田辺明生、藤田幸一	4. 巻 34
2. 論文標題 南アジア地域研究の課題・方法・展望ー人類学者と経済学者の対話 第 部：討論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 71-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田幸一	4. 巻 1
2. 論文標題 Q&A 4. 農業・農村	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 これからのインド・ビジネス～政治・経済・社会・ビジネス環境	6. 最初と最後の頁 200-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田峰夫	4. 巻 1
2. 論文標題 カテゴリーの段階的遷移 「事件」から見たバングラデシュ・ミャンマー国境地帯と「ロヒンギャ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南アジアの新しい風(上) - グローバルな社会変動と南アジアのレジリエンス	6. 最初と最後の頁 99-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉江あい	4. 巻 74 (3)
2. 論文標題 学会展望 (地誌・地域研究)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 227-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ai Sugie	4. 巻 1
2. 論文標題 Do 'Islamic Norms' Impede Inclusive Development of Women?: A Case Study of Islamic Education for Women in Rural Bangladesh	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Inclusive Development in South Asia	6. 最初と最後の頁 250-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita, K., A. Ohno, and K. Vatta	4. 巻 58 (5)
2. 論文標題 Contrasted Agrarian Change in Punjab, India: Case Study of Two Villages in Ludhiana and Jalandhar Districts	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Economic & Political Weekly	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 第96巻別冊
2. 論文標題 岡倉天心とインド知識人との仏教史観をめぐる対話	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 63-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 1
2. 論文標題 タリーカ、聖者崇敬（ベンガル）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 世界民族百科事典	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 第96巻別冊
2. 論文標題 日印交流における仏教：パネルの主旨とまとめ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 65-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okita Kiyokazu	4. 巻 68(3)
2. 論文標題 The Authorship of the Commentary on Vopadeva 's Harilila?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1107-1113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4259/ibk.68.3_1107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sugie, Ai	4. 巻 10(9)
2. 論文標題 Solidarity economy versus neoliberalism?: Microcredit in rural Bangladesh.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Business and Economics	6. 最初と最後の頁 811-824
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉江あい	4. 巻 1
2. 論文標題 難民キャンプに暮らすロヒンギャ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロヒンギャ問題とは何か	6. 最初と最後の頁 64-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉江あい	4. 巻 1
2. 論文標題 フィールドにおける安全対策とその限界 バングラデシュ調査体験より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フィールドワークの安全対策	6. 最初と最後の頁 128-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西井涼子	4. 巻 1
2. 論文標題 「もの人間」のエスノグラフィ - ラスタからダツワ実践者へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ものの人類学 2	6. 最初と最後の頁 149-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西井涼子	4. 巻 1
2. 論文標題 「見えないもの」という極限から生きる世界を考える - 精霊と死者と放射能を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 極限 人類社会の進化	6. 最初と最後の頁 267-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishii, Ryoko	4. 巻 1
2. 論文標題 A Corpse Neecessitates Disentangled relationships: Boundary Transgression and Boundary-Making in a Buddhist-Muslim Village in Southern Thailand	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Buddhist-Muslim Relations in a Theravada World	6. 最初と最後の頁 169-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西井涼子	4. 巻 22
2. 論文標題 遠いところにいる「友達」を想う	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フィールドプラス	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西井涼子	4. 巻 1
2. 論文標題 宗教の共生	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア文化事典	6. 最初と最後の頁 250-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 So YAMANE, Imran Akhtar	4. 巻 3
2. 論文標題 Lingual Categorization of Urdu Prose towards the Study of 'Urduness'(1775 to 1850)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 41-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山根聡	4. 巻 90
2. 論文標題 2019年2月印パ対立からみたパキスタン情勢における軍と司法のバランス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紀要 国際情勢	6. 最初と最後の頁 115-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 60
2. 論文標題 岡倉天心とヴィヴェーカーナンダの反響するアジア美術史観 インド美術史論争におけるギリシア起源説と社会進化論の克服を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本研究	6. 最初と最後の頁 39-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 98
2. 論文標題 スワミー・ヴィヴェーカーナンダにおけるインド美術史とインド社会像の探求 ラジェンドロラル・ミットロを中心とした19世紀のインド知識人の取り組みを背景とした	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 43-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 1
2. 論文標題 南アジアから公共宗教論を問い直す 植民地近代とインド社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジアの公共宗教 ポスト社会主義国家の政教関係	6. 最初と最後の頁 235-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外川昌彦	4. 巻 1
2. 論文標題 南アジアの宗教紛争とコミュニズム 寛容性と不寛容性をめぐる社会性の起源	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会性の起源と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 高田峰夫
2. 発表標題 バングラデシュ・ミャンマー国境地帯と「ロヒンギャ」
3. 学会等名 公益財団法人笹川平和財団平和構築支援グループ「各国のロヒンギャ勉強会」第5回
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高田峰夫
2. 発表標題 「ボルマイヤ」と「入植者」 「ロヒンギャ」から遠ざかる動きをめぐって
3. 学会等名 「ゾミア2.0：「東南アジア」と「南アジア」の境域における開発・民族・宗教」研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ai Sugie
2. 発表標題 Studies on Islam and Muslims by Japanese during World War II: A Focus on Geographic Studies
3. 学会等名 International Geographical Union
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 杉江あい
2. 発表標題 第二次世界大戦期における日本人地理学者の「イスラーム世界」論
3. 学会等名 人文地理学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山真弓
2. 発表標題 バングラデシュ輸出向け縫製産業にみる労働科学的課題
3. 学会等名 日本労働科学学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木亜望
2. 発表標題 都市の産業部への女性労働者の参加状況の分析ーバングラデシュ・ダカを対象として
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術調査フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷哲弥
2. 発表標題 Pilgrimage, Islamic Tourism, and Consumerization in Bangladesh
3. 学会等名 科研費研究会・口頭発表等
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷哲弥
2. 発表標題 経済成長下のバングラデシュにおける観光－観光行動の特徴とイスラミック・ツーリズムの進展をめぐって
3. 学会等名 科研費研究会・口頭発表等
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 「トランスカルチャー」から見たフィールドとアーカイブ
3. 学会等名 commonsカフェ：TUFSフィールドサイエンスcommons
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 バングラデシュの農村社会の変容と「イスラーム化」 - チョットグラム県ゴヒラ村の事例から
3. 学会等名 科研費研究会・口頭発表
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 近現代宗教研究の到達点とその先 国外宗教研究からの視点
3. 学会等名 「宗教と社会」学会・創立30周年記念特別企画（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高田峰夫
2. 発表標題 バングラデシュ・ミャンマー国境地帯と「ロヒンギャ」
3. 学会等名 公益財団法人笹川平和財団平和構築支援グループ「各国のロヒンギャ勉強会」第5回
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高田峰夫
2. 発表標題 Barmaiya (ボルマイヤ) と「入植者」 「ロヒンギャ」から遠ざかる動きをめぐって
3. 学会等名 「ゾミア2.0 : 「東南アジア」と「南アジア」の境域における開発・民族・宗教」研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ai Sugie
2. 発表標題 Studies on Islam and Muslims by Japanese during World War II: A Focus on Geographic Studies
3. 学会等名 International Geographical Union
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 杉江あい
2. 発表標題 第二次世界大戦期における日本人地理学者の「イスラーム世界」論
3. 学会等名 人文地理学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村山真弓
2. 発表標題 バングラデシュ輸出向け縫製産業にみる労働科学的課題
3. 学会等名 日本労働科学学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木亜望
2. 発表標題 都市の産業部への女性労働者の参加状況の分析－首都ダカを対象として
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術調査フォーラム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷哲弥
2. 発表標題 Pilgrimage, Islamic Tourism, and Consumerization in Bangladesh
3. 学会等名 科研費研究会・口頭発表等
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷哲弥
2. 発表標題 経済成長下のバングラデシュにおける観光－観光行動の特徴とイスラミック・ツーリズムの進展をめぐって
3. 学会等名 科研費研究会・口頭発表等
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 「トランスカルチャー」から見たフィールドとアーカイブ
3. 学会等名 コモンスカフェ：TUFSSフィールドサイエンスcommons
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 バングラデシュの農村社会の変容と「イスラーム化」 - チョットグラム県ゴヒラ村の事例から
3. 学会等名 科研費研究会・口頭発表
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 近現代宗教研究の到達点とその先 国外宗教研究からの視点
3. 学会等名 「宗教と社会」学会・創立30周年記念特別企画（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 置田清和
2. 発表標題 The Authorship of the Commentary on Vopadeva's Harilila
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okita Kiyokazu
2. 発表標題 Who Experiences Bhakti-rasa? The Nature of Devotional Practice according to Jiva Gosvami
3. 学会等名 48th Annual Conference on South Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sugie, Ai. and Khan, Shakil.
2. 発表標題 Changes and Persistence of Women's Roles in Rural Bangladesh
3. 学会等名 71st Annual Meeting of Population Association of Japan. (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉江あい, 海津正倫
2. 発表標題 バングラデシュロヒンギャ難民キャンプ地帯における水源とその利用
3. 学会等名 日本地理学会2019年秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉江あい
2. 発表標題 地理学における難民へのアプローチーロヒンギャ難民の事例をもとに
3. 学会等名 第3回「移動と共生」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishii, Ryoko
2. 発表標題 Touching the Body at Death: Muslim-Buddhist co-existence in Southern Thailand
3. 学会等名 Workshop Radical Embodied Cognition, 科研費新学術領域「顔・身体学」計画班「顔と身体表現の比較現象学」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西井涼子
2. 発表標題 死と集合性 - 社会性の起原の探究にむけて
3. 学会等名 科学研究費補助金基盤研究(S)「社会性の起原と進化: 人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」立ち上げシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishii, Ryoko
2. 発表標題 Convert 's body as an arena of entangled Muslim-Buddhist relationships in a Southern Thai village
3. 学会等名 International Conference on Resources and Human Mobility (Jointly organized by Mahidol University International College (招待講演)(国際学会))
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西井涼子
2. 発表標題 生命としての家 フィールドワークにおける出会いから生の潜在性へ
3. 学会等名 AAフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西井涼子
2. 発表標題 死と身体 『触る』ことからみる南タイのムスリム 仏教徒関係
3. 学会等名 新学術領域研究「トランスカルチャー状況下における顔・身体学」ポスター発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 南アジア・イスラーム復興思想の拡散に見る翻訳活動
3. 学会等名 現代中東地域研究次世代共同研究会2019年度第1回（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 カシミール問題を発端とする国際情勢とパキスタンの現状
3. 学会等名 中東情勢研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 日本におけるウルドゥー短編小説研究
3. 学会等名 第12回国際ウルドゥー会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 日本におけるウルドゥー語教育の歴史
3. 学会等名 第 12回国際ウルドゥー会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 日本におけるパンジャービー語とその文学の研究史
3. 学会等名 国際パンジャービー研究セミナー（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 ダリトは語るることができるか - 南アジアの民族誌的研究の課題
3. 学会等名 東京外国語大学AA研・共同研究課題研究会・第五回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Togawa, Masahiko
2. 発表標題 Exchange between Abanindranath Tagore and Yokoyama Taikan: Two Pictures as a Mirror Image
3. 学会等名 The 100th Anniversary of Kala-Bhavana, Visva-Bharati University, International Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Togawa, Masahiko
2. 発表標題 Revisiting the Ethnographic Study by the Late Professor Hara Tadahiko: Islam and the Peasant Society of the Gohira village in Chittagong, Bangladesh
3. 学会等名 International Symposium: Kinship and Family of the Muslim Village Society in Bengal: Revisiting an Ethnography by the late Professor Hara Tadahiko after 50 Years, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 スワミー・ヴィヴェーカーナンダにおけるインドの国民統合と宗教
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 現代南アジアにおけるムスリム社会の多極化の傾向 - テロとツーリズム
3. 学会等名 科研・基盤研究 (A) 研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 近代インドの宗教改革運動家スワミー・ヴィヴェーカーナンダとインド独立の父マハートマー・ガンディー
3. 学会等名 マハートマー・ガンディー第150回生誕記念祝賀会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外川昌彦
2. 発表標題 スワミー・ヴィヴェーカーナンダにおけるインド美術史とインド社会像の探求
3. 学会等名 FINDAS研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 石坂貴美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 よくわかる開発学	

1. 著者名 杉江あい	4. 発行年 2023年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 426
3. 書名 カースト再考 バングラデシュのヒンドゥーとムスリム	

1. 著者名 高田峰夫	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南アジアの新しい風（上）- グローバルな社会変動と南アジアのレジリエンス	5. 総ページ数 322
3. 書名 カテゴリーの段階的遷移 「事件」から見たバングラデシュ・ミャンマー国境地帯と「ロヒンギャ」	

1. 著者名 外川昌彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善書店	5. 総ページ数 792
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 外川昌彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 297
3. 書名 岡倉天心とインド - 「アジアは一つ」が生まれるまで	

1. 著者名 石坂貴美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 よくわかる開発学	

1. 著者名 杉江あい	4. 発行年 2023年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 426
3. 書名 カースト再考 バングラデシュのヒンドゥーとムスリム	

1. 著者名 高田峰夫	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南アジアの新しい風(上) - グローバルな社会変動と南アジアのレジリエンス	5. 総ページ数 322
3. 書名 カテゴリーの段階的遷移 「事件」から見たバングラデシュ・ミャンマー国境地帯と「ロヒンギャ」	

1. 著者名 外川昌彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善書店	5. 総ページ数 792
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 外川昌彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 297
3. 書名 岡倉天心とインド - 「アジアは一つ」が生まれるまで	

1. 著者名 Okita Kiyokazu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 280
3. 書名 The Legacy of Vaisnavism in Colonial Bengal	

1. 著者名 Okita Kiyokazu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The University of Washington Press	5. 総ページ数 255
3. 書名 Bhakti and Power: Debating India's Religion of the Heart	

1. 著者名 Naonori Kusakabe	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ICON Press	5. 総ページ数 122
3. 書名 Disaster vulnerability and poverty in developing countries: Cyclone damage and resilience in Bangladesh	

1. 著者名 日下部尚徳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 ロヒンギャ問題とは何か 難民になれない難民	

1. 著者名 日下部尚徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 254
3. 書名 新 世界の社会福祉 9巻 南アジア編	

1. 著者名 日下部尚徳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 614
3. 書名 アジア動向年報2019	

1. 著者名 日下部尚徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 225
3. 書名 中東・イスラーム諸国政治変動ハンドブック2019 (MEIS-NIHU Series no.2)	

1. 著者名 中谷哲弥	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 512
3. 書名 インド・パキスタン分離独立と難民 移動と再定住の民族誌	

1. 著者名 藤田幸一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学	5. 総ページ数 256
3. 書名 開発経済学：アジアの農村から	

1. 著者名 藤田幸一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 804
3. 書名 農業経済学事典	

1. 著者名 山根 聡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK放送文化研究所	5. 総ページ数 336
3. 書名 NHKデータブック世界の放送2020	

1. 著者名 山根 聡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 現代地政学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村山 真弓 (Murayama Mayumi) (10450454)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・その他部局等・理事 (82512)	
研究分担者	杉江 あい (Sugie Ai) (10786023)	京都大学・文学研究科・講師 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西井 涼子 (Nishii Ryoko) (20262214)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
研究分担者	中谷 哲弥 (Nakatani Tetsuya) (50285384)	奈良県立大学・地域創造学部・教授 (24602)	
研究分担者	日下部 尚徳 (Kusakabe Naonori) (60636976)	立教大学・異文化コミュニケーション学部・准教授 (32686)	
研究分担者	石坂 貴美 (Ishizaka Takami) (60804606)	関東学院大学・経済学部・准教授 (32704)	
研究分担者	置田 清和 (Okita Kiyokazu) (70708627)	上智大学・国際教養学部・准教授 (32621)	
研究分担者	藤田 幸一 (Fujita Koichi) (80272441)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	山根 聡 (Yamane So) (80283836)	大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授 (14401)	
研究分担者	池田 昭光 (Ikeda Akimitsu) (10725865)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
バングラデシュ	Jahangirnagar University			